



22000-XKPE-K080

COPPER FIBER CLUTCH SYSTEM

取 付 ・ 取 扱 説 明 書

この度は、無限製品をお買い上げ頂きありがとうございます。

ご使用される前に必ず本書をお読み頂き、本製品の内容及び注意点をご理解の上、正しく使用下さい。

当製品取付け後は本書を必ずお手元に保管して下さい。

※本書の内容は予告なく変更する場合があります、予めご了承下さい。

⚠ 使用上のご注意

- ・本製品の取付けにはトランスミッションの脱着作業が伴います。交換は必ずホンダディーラーおよび認証工場で行って下さい。交換に伴う不具合により生じた事故等につきましては、当社は一切責任を負いかねますのでご了承下さい。
※本書の内容は自動車整備士および整備についてある程度の知識を持った方を対象としています。経験がない方のみでの組付け作業はケガや事故または走行中の車両トラブル等を招くおそれが有り、大変危険ですので絶対に行わないで下さい。
- ・作業前に本書をよくお読み頂き、部品番号および適合車種と、内容部品の状態を確認して下さい。万が一問題が発生した場合は取付けを行わず、当社にご連絡下さい。
- ・取付けを行う際は関連部品を点検し、異常があれば交換または修理を行った後、サービスマニュアルに従って作業して下さい。
- ・本製品を取付けた後にクラッチペダル位置（切れ点および繋がり点）が変化する場合があります。取付け後はサービスマニュアルに従ってペダル調整を行って下さい。
- ・本製品の加工・誤使用による不具合、事故等について当社は一切責任を負いかねますのでご了承下さい。
- ・クラッチディスクは消耗部品です。限度を超えたクラッチディスクを使用しての走行は危険ですので絶対に止めて下さい。定期的に点検し使用限度より早めの交換を心掛けて下さい。**（本製品の使用限度：摩擦材厚み 片側 1.5mmまで）**
- ・装着後はクラッチディスク、カバーおよびリリースベアリング、その他関連部品の磨耗や異常がないか定期的に点検して下さい。万が一異常が認められた場合は直ちに修理または交換を行って下さい。
- ・本製品を取付けた後は必ず慣らし走行を行って下さい。慣らし走行を行わずにサーキット走行や過酷な使用を行うと、すべりや部分的な焼付きを生じ、ジャダーや寿命低下につながります。
- ・変速操作以外にクラッチペダルに足を載せたままでの走行は行わないで下さい。クラッチディスク、カバーおよびリリースベアリングの寿命低下につながります。
- ・使用状況によっては発進時に若干の鳴きやジャダーが出る場合がありますが特に異常ではありません。
- ・走行中に不具合（異音、振動、異臭、切れ不良）が発生した時は、直ちに走行を中止しホンダディーラーおよび認証工場にて点検を受けて下さい。

本製品の特性

- ストリート～スポーツ走行における扱い易さと伝達性能を両立したクラッチシステム。
- クラッチディスクは STD に対し 22%低イナーシャ化し、クッシュニングプレートを廃した事でシフトチェンジ時のクラッチ操作に対するレスポンス・シフトフィールを向上。また、銅と樹脂を配合した新素材をフェーシングに用いる事で、ダイレクトな操作感と耐フェード・フェードリカバリー性能を両立。
- クラッチカバーは圧着力を 7100Nm と高める事で許容トルクを増大、高出力エンジンにも対応。

⚠ 作業上のご注意

商品開梱後は直ちに内容物の数、破損などが無いか状態を確認して下さい。

- ・取付け前に取付け車両の型式の確認を行ってください。本製品は車種ごとにテストを行って適合を設定しておりますので、適合車種以外への取付けは行わないで下さい。

【本製品の適合車種】 CIVIC TYPE-R (EP3/FD2), CIVIC TYPE-R EURO (FN2), INTEGRA TYPE-R (DC5),
ACCORD EURO-R (CL7)

- ・純正パーツの取付け・取外しは**本田技研工業(株)発行のサービスマニュアル**に従って行なって下さい。

- ・精密部品の為、開梱および取付け時は落下させる等強い衝撃を与えない様注意して下さい。

⚠ 警告

- ・交換作業は車両が十分に冷えた状態で行ってください、走行直後はトランスミッションを含め駆動系部品が非常に高温になっており触れると火傷の危険があります。
- ・車両を持ち上げる際は車両毎の指定位置でジャッキアップまたはリフトアップし、ジャッキアップ後は必ずリジトラックを使用し、短時間の作業でもジャッキのみの作業は絶対にしないで下さい。
- ・交換作業の際は保護手袋をして下さい。クラッチディスクの摩擦材に含まれる成分により手に怪我を負う危険があります。
- ・交換作業の際はマスクをすることをお勧めします。クラッチディスクからの磨耗粉の飛散により、体内へ侵入するおそれがあるので、十分な注意を払って作業を行ってください（本製品はノンアスベスト材を使用しております）。
- ・取付けの際、フライホイール、クラッチディスクおよびクラッチカバーの摺動面に油脂類等が付着しない様にして下さい。クラッチ性能を著しく低下させ大変危険です。油脂類が付着した場合には必ずブレーキクリーナー等で洗浄して下さい。

商品についてご質問、ご不明な点等ございましたら下記にお問い合わせ下さい。

〒351-8586 埼玉県朝霞市膝折町 2-15-11

株式会社 M-T E C 商品事業部 営業課 【営業時間 9:00～18:00】

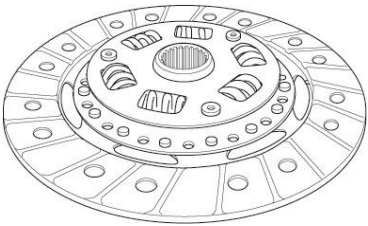
TEL: 048-462-3131

FAX: 048-462-3121・

【構成部品内容】

キット品番 22000 - XKPE - K0S0

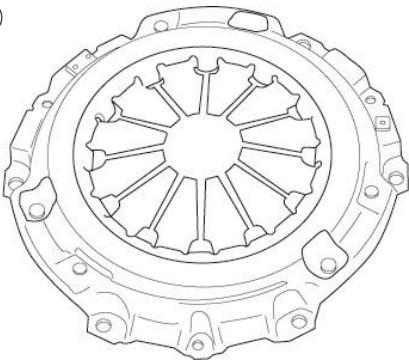
①



③



②



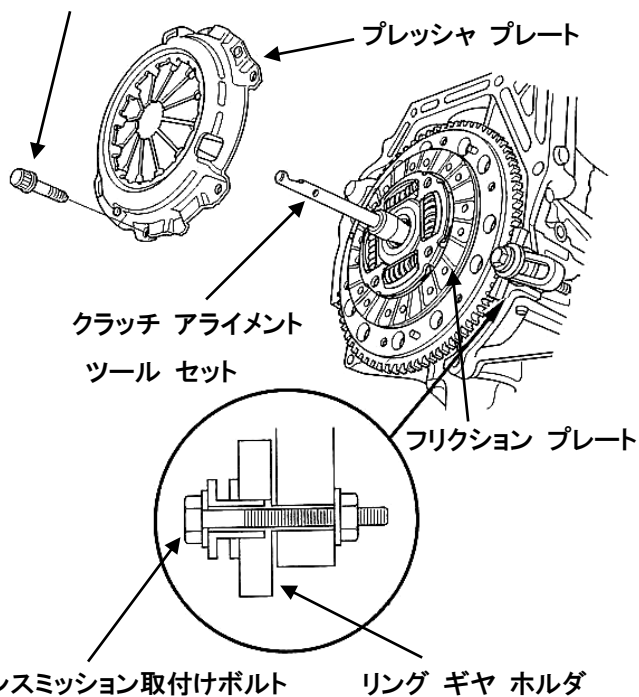
NO.	構成品番	QTY
	品 名	
①	22200-XKPE-0000	1
	DISK COMP, FRICTION	
②	22300-XKPE-0000	1
	DISK COMP, PRESSURE	
③	BEARING, CLUTCH RLS	1

【本製品の取付け準備】

・プレッシャ プレート・フリクション ディスクの取外し

- ①サービスマニュアルに従って正しい位置でジャッキアップまたはリフトアップし、ジャッキアップの際はリジトラックを使用し、作業にあたって車両が安全な状態であることを確認する。
- ②各車種用サービスマニュアルに従い、車体からトランスミッションを取外す。
- ③トランスミッション取付けボルトを使用し、専用工具（リング ギヤ ホルダ・クラッチ アライメント ツール セット）を取付ける。

プレッシャ プレート取付けボルト



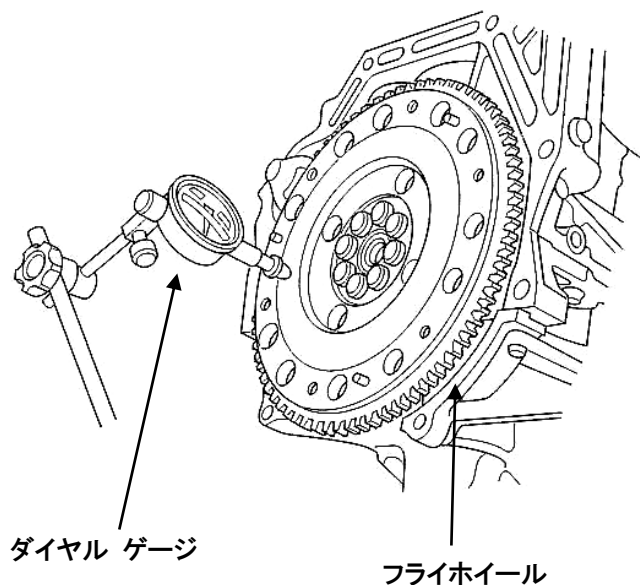
- ④プレッシャ プレート取付けボルトを対角線に2～3回に分けてゆるめ、プレッシャ プレートを取外す。
- ⑤専用工具（リング ギヤ ホルダ・クラッチ アライメント ツール セット）、フリクション ディスクを取外す。

・フライホイール点検

- ①リング ギヤの歯を点検し、磨耗、損傷がある場合は交換する。
- ②フリクション ディスクとの接触面を点検し、磨耗、損傷、変色がある場合は交換する。
- ③ダイヤル ゲージを使用し、ガタがないよう押さえながら2回転以上回して、フライホイールの振れを点検する。限度値以上の場合は、フライホイールを交換する。

標準値:0.05mm以下

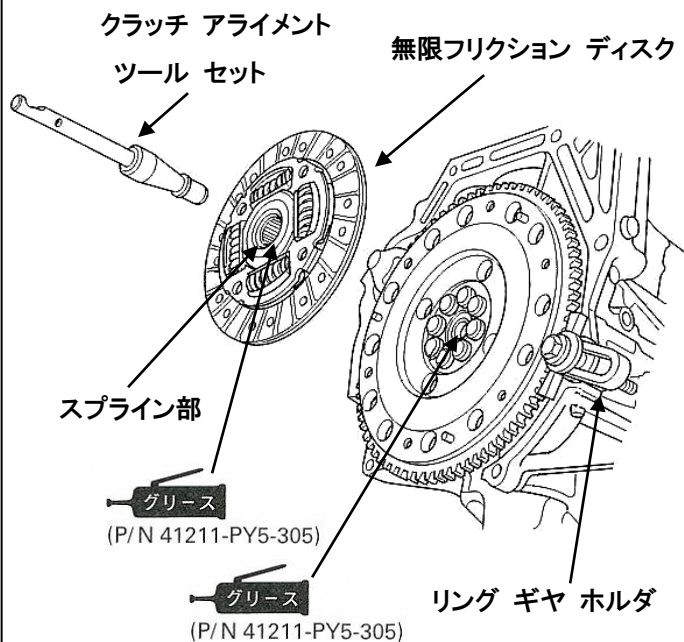
限度値:0.15mm



【本製品の取付け】

・無限プレッシャ プレート・フリクション ディスクの取付け

①専用工具（リング ギヤ ホルダ）を取付ける。

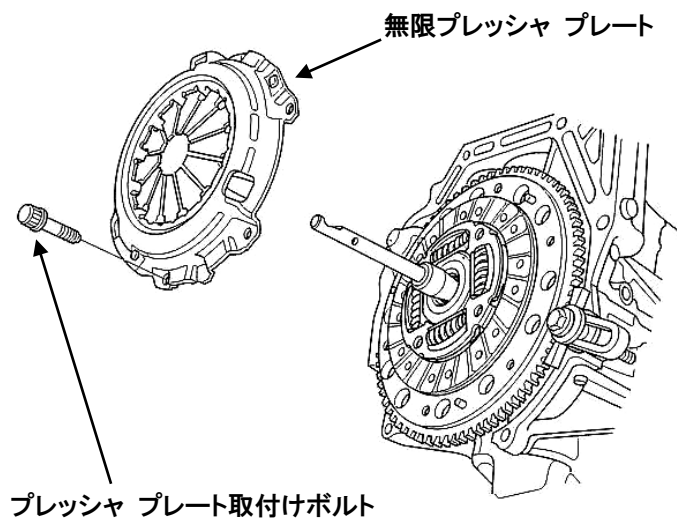


②無限フリクション ディスクのスプライン部に上図記載のグリースを塗布し、メインシャフトを挿入する。

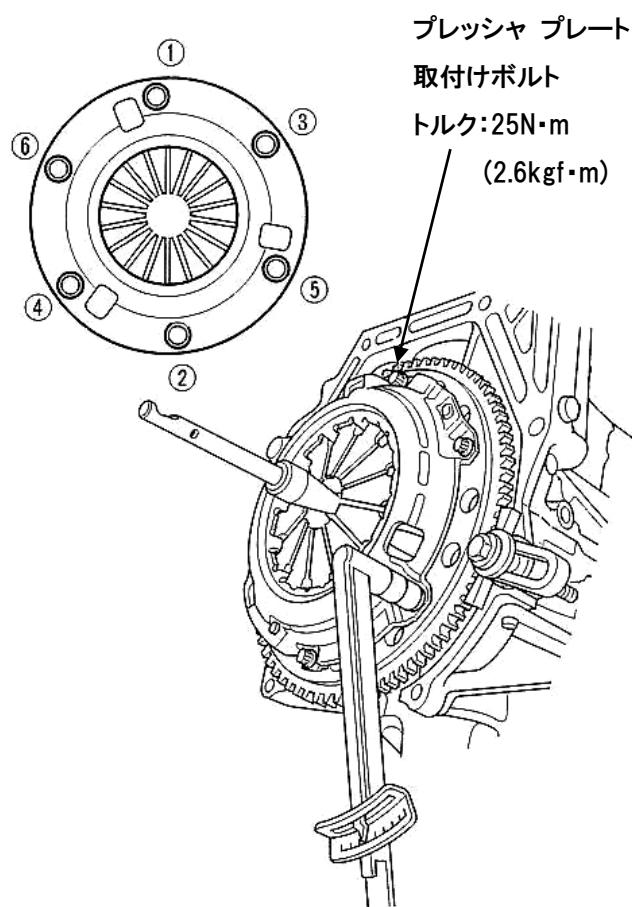
※はみ出たグリースは拭取ること。

③専用工具（クラッチ アライメント ツール セット）を使用して無限フリクション ディスクを取付ける。

④無限プレッシャ プレートを取付け、プレッシャ プレート取付けボルトを仮締めする。



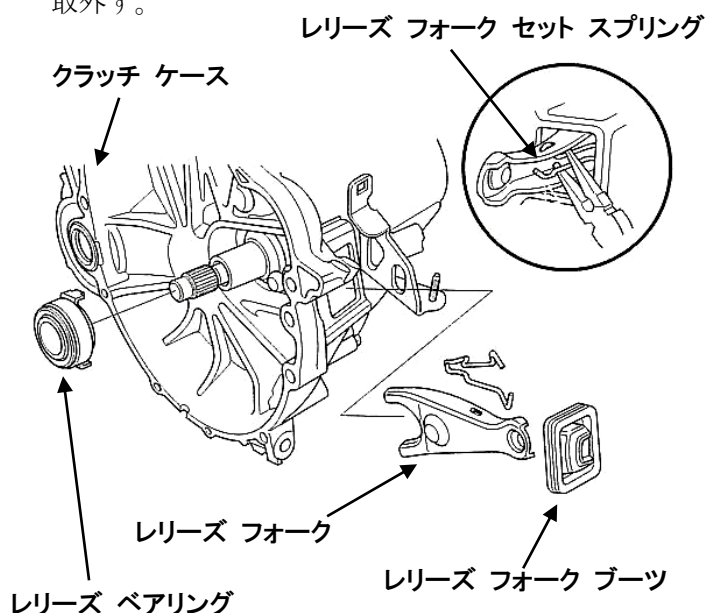
⑤ダイヤフラム スプリングの歪みを防ぐため、取付けボルトを対角線に2～3回に分けて締付ける。



⑥専用工具を取外す。

・リリース ベアリング交換

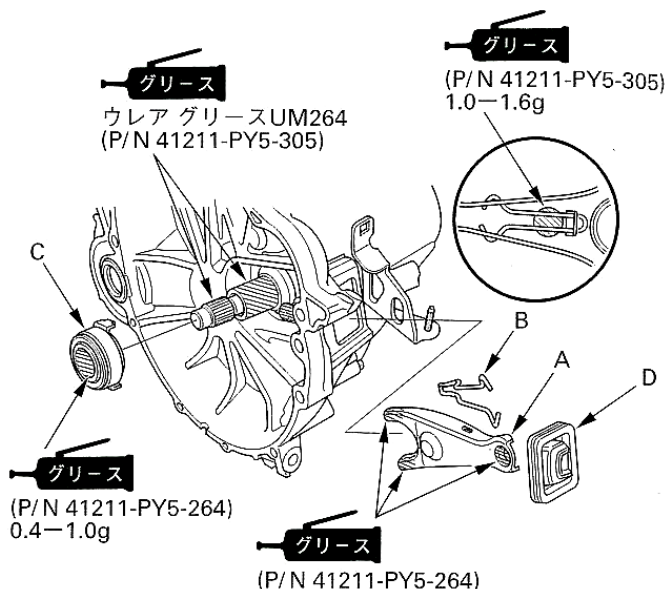
- ①クラッチ ケースからリリース フォーク ブーツを取外す。



- ②プライヤでリリース フォーク セット スプリングをはさみ、リリース フォークの穴から外す。

- ③リリース フォーク、リリース フォーク セット スプリング、リリース ベアリングを取外す。

- ④各部に下図記載のウレア グリースを塗布し、リリース フォークにリリース フォーク セット スプリングを取付ける。



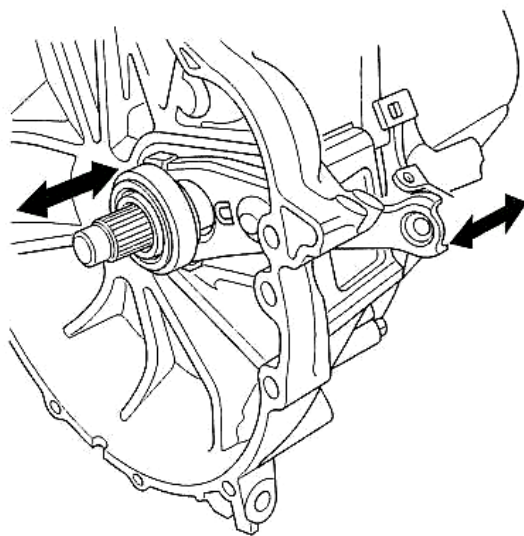
- ⑤リリース フォークに付属のリリース ベアリングを組付け、クラッチ ケースの内側からリリース フォークを通し、メインシャフトにリリース ベアリングを取付ける。

※付属のリリース ベアリングは作動確認を行い、異常がないことを確認した上で取付けを行うこと。

- ⑥リリース フォーク ボルトとリリース フォークの窪み（リリース フォーク セット スプリングの中心）を合わせ、リリース フォークを垂直に押付けて組付ける。

- ⑦クラッチ ケース、リリース フォークにすき間がないようにリリース フォーク ブーツを取付ける。

- ⑧組付け後、リリース フォークを左右に動かし、リリース ベアリングがスムーズに作動するか確認する。また、はみ出たグリースを拭取る。



・トランスミッションの取付け

- ①各車種用サービスマニュアルに従い、車体へトランスミッションを取付ける。